

授 業 科 目		単 位			開講期		担 任 教 員				備 考
		講義	演習	実験	前	後					
A 類	生産システム工学	作業工学特論	2								休講
		生産管理特論	2			○		教授	工博	松 浦 春 樹	
		生産計画特論	2				○	教授	工博	松 浦 春 樹	
		生産マネジメント工学特論	2			○		教授	博(工)	中 島 健 一	
		知能生産システム工学特論	2			○		教授	工博	松 井 正 之	
		品質管理特論	2			○		教授	博(工)	中 島 健 一	
		システム工学特論	2				○	教授	博(工)	中 島 健 一	
		労務管理特論	2			○		教授	博(工)	松 丸 正 延	
		組織科学特論	2				○	教授	博(工)	松 丸 正 延	
		生産技術特論	2				○	准教授	工博	細 川 修 二	
	数理情報システム工学	数理計画法特論	2			○		教授	理博	進 藤 晋	
		数理システム工学特論	2			○		教授	工博	杉 本 剛	
		数理解析特論	2				○	教授	工博	杉 本 剛	
		統計数学特論	2			○		教授	理博	成 田 清 正	
		情報数学特論	2				○	教授	理博	成 田 清 正	
		計算論理学特論	2			○		教授	理博	阿 部 吉 弘	
			2				○	准教授	博(情報理工)	西 澤 弘 毅	
		グラフ理論特論	2				○	教授	理博	矢 島 幸 信	
			2			○		准教授	博(情報理工)	西 澤 弘 毅	
		統計解析特論	2								
	情報システム工学	データ解析特論	2				○	教授	博(工)	今 井 崇 雅	休講
		情報システム工学特論	2				○	教授	博(工)	森 田 光	
		計画情報システム特論	2			○		教授	博(工)	秋 吉 政 徳	
		システム信頼性工学特論	2				○	教授	博(工)	秋 吉 政 徳	
		ソフトウェア工学特論	2			○		准教授	博(工)	内 田 智 史	
		ソフトウェア工学特論	2				○	准教授	博(工)	内 田 智 史	
		情報ネットワーク特論	2			○		教授	博(工)	森 田 光	
		技術社会特論	2			○		教授	博(工)	今 井 崇 雅	
	経営管理システム工学	ロジスティクス工学特論	2				○	教授	工博	松 井 正 之	
		経済性工学特論	2				○	教授	博(工)	瀬古沢 照 治	
		経営管理特論	2			○		教授	博(工)	瀬古沢 照 治	
		経営管理特論	2				○	教授	理博	進 藤 晋	
		OR特論	2				○	教授	理博	進 藤 晋	
		経営数学特論	2			○		教授	工博	藤 岡 淳	
		確率ネットワーク特論	2				○	教授	工博	藤 岡 淳	
		管理情報システム特論	2			○		教授	博(理)	窪 谷 浩 人	
B 類		経営工学輪講		1		○		教授	博(工)	秋 吉 政 徳	
		経営工学輪講		1			○	教授	理博	阿 部 吉 弘	
		経営工学輪講		1		○		教授	博(工)	今 井 崇 雅	
		経営工学輪講		1			○	教授	理博	進 藤 晋	
		経営工学特別研究			1	○		教授	工博	杉 本 剛	
		経営工学特別研究			1		○	教授	博(工)	瀬古沢 照 治	
		経営工学特別研究			1	○		教授	博(工)	中 島 健 一	
		経営工学特別研究			1		○	教授	理博	成 田 清 正	
								教授	工博	藤 岡 淳	
								教授	工博	松 井 正 之	
								教授	工博	松 浦 春 樹	
								教授	博(工)	松 丸 正 延	
								教授	博(工)	森 田 光	
								教授	理博	矢 島 幸 信	
								准教授	博(工)	内 田 智 史	
								准教授	博(情報理工)	西 澤 弘 毅	

授 業 科 目		単 位			開講期		担 任 教 員			備 考
		講義	演習	実験	前	後				
C 類	応用数学	2			○		講師	理博	酒 井 克 郎	
	応用数学	2				○	講師	理博	酒 井 克 郎	
	応用物理	2			○		講師		白 井 達 也	
	応用物理	2				○	教授	理博	田 村 忠 久	
	実践科学技術英語	1			○		講師		田 沼 智 子	
	実践科学技術英語						講師		南 田 孝 子	
	実践科学技術英語	1				○	講師		田 沼 智 子	
	実践科学技術英語						講師		南 田 孝 子	
	学外研修 A			2	○		教授	理博	進 藤 晋	
	学外研修 B			2		○	教授	理博	進 藤 晋	
D 類	他研究科および 工学研究科他専攻の科目									

「生産マネジメント工学特論」は、2009年度以降の入学者に適用。

「管理情報システム特論」「技術社会特論」は、2011年度から科目群変更。

「生産技術特論」は、2012年度以降の入学者に適用。

「実践科学技術英語」「実践科学技術英語」は、2013年度以降の入学者に適用。

指導教授

学生は所属する専攻の科目のうちから演習の指導を受ける1科目(自己の最も専門に研究しようとする科目)を選び、研究科委員長の承認を得て、その科目担当の教授によって研究全般の指導を受けること。

この科目をその学生の専修科目と称し、担任教授を指導教授という。

履修方法

1. 指導教授の指導によって、30単位以上を履修すること。その内訳は次のとおりとする。

(1) A類から22単位以上(2009年度以降の入学者のうち修業年限の短縮が認められた者については、26単位以上)

(2) B類から8単位(2009年度以降の入学者のうち修業年限の短縮が認められた者については、4単位)

(3) C類およびD類の取得単位は8単位までA類に換算することができる。

(4) また、他大学大学院(神奈川県内の大学院間の単位互換協定校)の授業科目を10単位まで履修することができる。修得した単位は、C類およびD類と合わせて8単位まで、A類に換算することができる。

(5) A類中自己が最も専門に研究しようとする科目の講義は必修とする。なお、B類のその科目に関する 輪講、特別研究は必修として履修するものである。

2. 「学外研修A」「学外研修B」の履修については、担当教員に確認すること。

3. 長期履修制度に関する所定の手続に従い申請等を行うことにより、修業年限を3年または4年とすることができる。

4. 単位は、1年次修了までに(長期履修が認められた者については、修了前年度までに)20単位以上を修得すること。

5. 本研究科の指定する方法で、修士論文の中間発表を行わなければならない。

修了要件

1. 博士前期課程の修了要件は、本研究科に2年次以上(2009年度以降の入学者のうち修業年限の短縮が認められた者については、1年次以上)在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文または特定課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。

2. 修士論文または特定課題についての研究成果の審査を申請し得る者は、博士前期課程第2年次以上(2009年度以降の入学者のうち修業年限の短縮が認められた者については、1年次以上)在学し、所定の授業科目について20単位以上を修得し、かつ、本研究科の指定する方法により外国語の学力に関する認定に合格した者に限る。

授 業 科 目	単 位		開講期		担 任 教 員	備 考
	講義	演習	前	後		
生産システム工学特殊研究	2	2	○		教授 工博 松 井 正 之	
	2	2	○		教授 工博 松 浦 春 樹	
生産システム工学特殊研究	2	2		○	教授 工博 松 井 正 之	
	2	2		○	教授 工博 松 浦 春 樹	
数理情報システム工学特殊研究	2	2	○		教授 理博 成 田 清 正	
	2	2	○		教授 工博 杉 本 剛	
数理情報システム工学特殊研究	2	2		○	教授 理博 成 田 清 正	
	2	2		○	教授 工博 杉 本 剛	
情報システム工学特殊研究	2	2	○		教授 博(工) 森 田 光	
	2	2	○		教授 博(工) 今 井 崇 雅	
	2		○		教授 博(工) 秋 吉 政 徳	
情報システム工学特殊研究	2	2		○	教授 博(工) 森 田 光	
	2	2		○	教授 博(工) 今 井 崇 雅	
	2			○	教授 博(工) 秋 吉 政 徳	
経営管理システム特殊研究	2	2	○		教授 理博 進 藤 晋	
	2	2	○		教授 博(工) 瀬古沢 照 治	
	2	2	○		教授 博(工) 松 丸 正 延	
経営管理システム特殊研究	2	2		○	教授 理博 進 藤 晋	
	2	2		○	教授 博(工) 瀬古沢 照 治	
	2	2		○	教授 博(工) 松 丸 正 延	

履修方法

- 1．学生は自己の最も専門に研究しようとする科目を選び、その演習を担当する教授から研究全般の指導を受けるものとする。
- 2．この科目をその学生の専修科目と称し、担任教授を指導教授という。
- 3．学生は指導教授による演習を12単位、その他指導教授の指導により専修科目または他の科目から、8単位以上履修すること。

修了要件

- 1．博士後期課程の修了要件は、博士後期課程に3年以上在学し、20単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。
- 2．博士論文の審査を申請し得る者は、博士後期課程において、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、本研究科の指定する方法により外国語の学力に関する認定に合格した者に限る。